

第 53 回宮崎県小学校教育研究会社会科部会

夏季特別研修会資料



令和6年8月8日(木)

目 次

1 宮崎県小学校教育研究会社会科部会 研究主題等	・・・・・・・・・・	1
2 学年部別研究発表資料		
(1) 中学年 国富町立本庄小学校 教諭 木原 寛士	・・・・・・・・・・	5
(2) 高学年 三股町立三股西小学校 教諭 谷口 勇太	・・・・・・・・・・	11
3 学年部別授業づくり研修資料		
(1) 中学年 延岡市立東小学校 指導教諭 東坂 将秀	・・・・・・・・・・	18
(2) 高学年 都城市立高城小学校 教諭 平野 雄大	・・・・・・・・・・	19
4 講演「社会科学習指導の充実に向けて」	・・・・・・・・・・	20
講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 小倉 勝登 氏		
※ 事後アンケートへの協力について	・・・・・・・・・・	21

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習

～問いを持ち続ける力を育む授業を通して～

I 主題設定の理由

人工知能（AI）、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.5 時代が到来しつつある。産業構造や雇用環境が急速に変化し、さらには、急激な少子高齢化も進行している。そのため、次世代を切り拓く子どもたち一人一人が、感性を豊かに働かせながら、どのような未来をつくっていくか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考えだしたり、答えのない課題に対して多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解や最適解を見いだしたりしながら合意形成を図っていくことが望まれる。そうした力をもとに持続可能な社会の創り手として、豊かにたくましく成長していくことが期待されている。

このような社会であるから、将来の主権者にふさわしい公民的資質の基礎を育てること、つまり、よりよい社会形成に参画する資質や能力の基礎を育てることをめざす社会科の役割は、ますます重要になっている。

学習指導要領の社会科の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」と示されており、小学校社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って明確化し、社会的事象の見方・考え方を、資質・能力全体に関わるものとして位置付けられている。

これまでの本県小社研では、平成27年度より、研究主題を「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」、副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業の構想」とし、問題解決的な学習を核とした単元構成及び授業構成に関する研究を進めてきた。

近年の「みやぎ小中学校学習状況調査」の中学校1年生の社会科の結果を見ると、「複数の資料を関連付けて読み取ること」、「学習問題の解決に必要な情報を選択し、その情報を関連付けたり総合したりして説明すること」などが課題として挙げられた。資料を読み取る技能だけでなく、読み取った事実をもとに比較・関連・総合して考えたり表現したりする力が十分に身に付いていないという実態が明らかになった。

同様に「全国学力学習状況調査」からは、「主体的に学習問題（課題）に取り組む姿勢」や「学び続ける姿勢」などに課題が見られた。

そこで、これまでの研究の基本的な考え方は継続しながらも、思考力・判断力・表現力を培ったうえで、児童自身が一人で、または、仲間と学び続ける姿勢を育むような学習を取り入れた授業実践により重きをおきたいという考えのもと、令和6年度より副題を「問いを持ち続ける力を育む授業を通して」と変更することとした。学習課題だけでなく、身近な社会生活の中でも問いを持ち続けられるような具体的な授業の在り方について研究を進めるとともに、授業実践を積み重ねながら、指導方法の工夫・改善を図ることにより、「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」をめざしたいと考え、本主題及び副題を設定した。

II 主題設定の基本的な考え方

I 社会科で育てたい「資質・能力の基礎」とは

- 生きて働く「知識・技能」の習得
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会の関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

2 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもとは

【自ら学び、考える子どもとは】

- 学習や生活の中で、社会に見られる課題をつかみ、知識と技能を活用して主体的に思考・判断したり、表現したりしながら課題を解決しようとする子ども

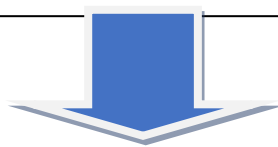
【社会を拓こうとする子どもとは】

- 学習したことを生活に生かし、よりよい社会を考え続ける子ども

3 問い続ける子どもの姿とは

問い続ける＝学びの連続性

1 単位時間や1 単元を通した社会科学習の中で、調べたい、考えたいという意欲を持ち続けられる子ども



「自分と社会の関わり方について考え続け、よりよい社会にしていこう」
⇒ 社会科の役割である公民的資質の基礎の育成につながっていく

Ⅲ 研究の全体構想図

【社会科目標】

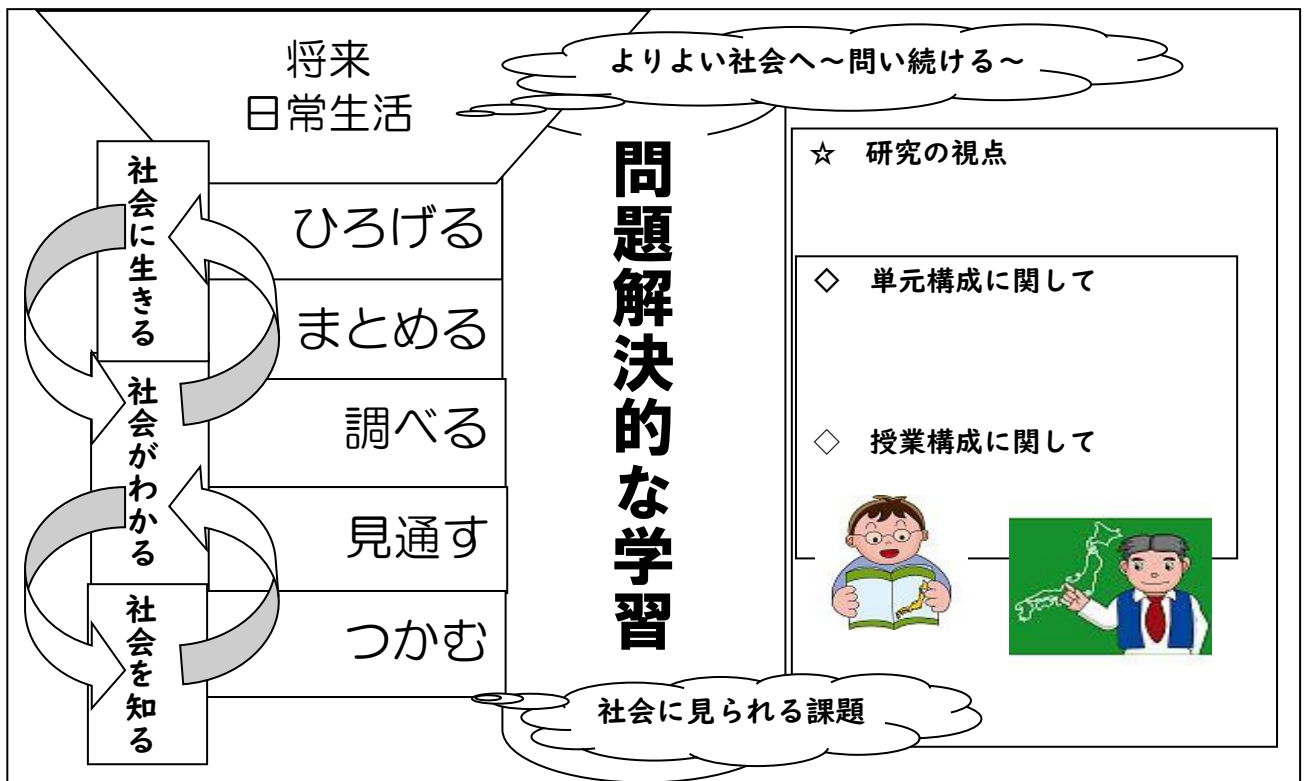
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて社会の関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。 【学びに向かう力、人間性等】

【めざす子どもの姿】

学習や生活の中で、社会に見られる課題をつかみ、知識と技能を活用して主体的に思考・判断したり、表現したりしながら課題を解決し、よりよい社会について考え、学び続ける子ども

【研究主題】自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
～問いを持ち続ける力を育む授業を通して～



今後の教育の方向、子どもの実態、子ども・教師の思いや願い

【学年部別研究発表資料】

学年部別授業づくり研修（10:30～11:20）

部会	発表者	司会者	会場	
中学年	国富町立本庄小学校 教諭 木原 寛士	日南市立吾田小学校 指導教諭 郡司 美和子	101 研修室	ブレイク アウト ルーム①
高学年	三股町立三股西小学校 教諭 谷口 勇太	宮崎市立生目小学校 指導教諭 尾崎 智子	102研修室	ブレイク アウト ルーム②

児童が自分の考えを表現できるようにするための手立てはどうあればよいか

単元名 安全なくらしを守る ～わたしたちの安全なくらしを守るために～

国富町立本庄小学校 教諭 木原 寛士

1 研究主題とのかかわり

予測困難な社会に対応できる子ども達の育成に向け改定された現行の学習指導要領では、子ども達が、「何をどのように学び、何ができるようになるか」といった視点に立ち、新しい時代に求められる資質・能力を育むための教育活動がスタートした。一方、令和元年度に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学校教育にも甚大な影響を与え、学校においてもICT環境を活用した学びの保障を進めることの契機となった。このような状況を踏まえ、次世代を切り拓く子ども一人一人が、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことのできる“持続可能な社会の形成者”として、成長していくことが期待されている。

近年の宮崎県の児童の実態を見ると、資料を読み取る力、読み取った事実から、考え、判断し、表現する力といった社会的な思考力・判断力・表現力が大きな課題となっている。郡内の5つの小学校においても共通の課題となっており、課題解決のための手立てが各小学校で取り組まれている。これらの現状から、社会的な事象と出会った児童が、これまでの経験や学習内容と関連付け、多角的に考え、選択・判断したことを自分の言葉で表現できるようにする手立てを図ることにより、小社研の考えにつながる自ら学び、考え、社会を拓こうとする児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 研究の視点

(1) ツールミンモデルの活用

ツールミンモデルとは、イギリスの分析哲学者スティーブン・ツールミンが提唱した主張を図式化する「議論レイアウト」である。ツールミンモデルのメリットの一つである「論理的な議論を段階的に組み立てることができる」に焦点化し、教師がワークシートを「議論レイアウト」に沿って作成すれば、児童は社会的な事象から、これまでの経験や学習内容と関連付け、段階的に思考しながら表現できるようになると考えた。

(2) ICT機器の活用

ICT機器は、その長所を生かし適材適所で活用を行うことで、その効果が発揮される。社会科という教科の特性上、具体物との出会いや体験ほど効果的な学習法はないが、擬似的に出会ったり体験できたりすることが可能なのがICT機器のメリットである。また、写真等で記録をとっておくことで、これまでの学習を想起させることも容易である。そのICT機器のメリットを効果的に学習活動に組み込むことで、児童の理解が促進され、思考が活発になると考えた。

(3) 単元構成の工夫

社会科では、社会的な事象を実際に体験する活動を取り入れることで、より学びに向かう主体性や思考力・判断力・表現力の向上が期待される。そのため、見学を主軸においた単元構成の工夫を行うことで、単元全体を通して、必要な情報を収集したり、その収集した情報から思考したり、さらには、思考したことや学んだことを進んで表現したりできるようになると考えた。

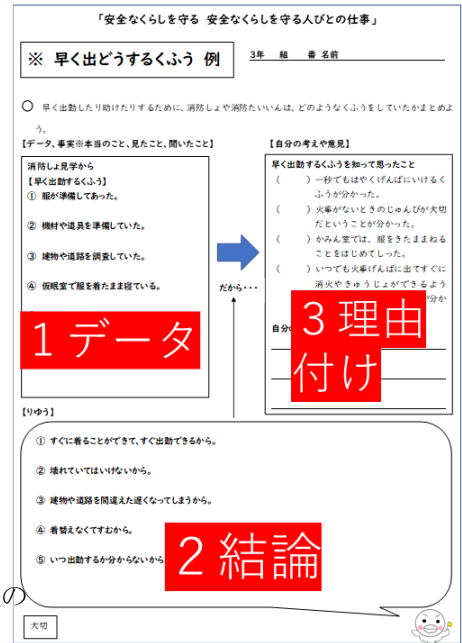
3 研究の実際

(1) ツールミンモデルの活用

ツールミンモデルでは、結論を支える根拠を「データ」と「理由付け」に分けて、①「データ」、②「結論」、③「理由付け」の3つを議論の基本要素として図式化する。本単元では、「①データ」として消防署見学で撮っていた写真を活用し、データから分かること、そしてどうしてそのようになっているのかという「③理由」を考え、そこから「②結論」を導き出すワークシートを作成し思考させた。ツールミンモデルを活用したことで、多角的にものを見て書けるようになってきた。

(2) ICT 機器の活用

本単元では「多くのデータ(写真)から必要なデータを選び工夫を見つける」、「グループで選んだデータについて話し合う」、「各班の考えたことを共有する」際に ICT 機器を活用して学習に取り組ませた。



【作成したワークシート】

(3) 単元構成の工夫

本単元では、見学を主軸におき、4,5 時の見学を見通しての課題づくりや、見学で調べたことを見学後に活用することで児童が単元末までの見通しをもつなどの学習に取り組めるよう単元を構成した。

また、単元の最後には「新聞づくり」の学習を取り入れた。自分にもできることを考えたり、学習して分かったことを書いたりする時間をとり、表現力を育てるようにした。新聞のわくは教師が作り、児童が自分の考えを短時間で表現できるようにした。

時	本時の活動
1	火災から地域の安全を守る活動に関心をもち、学習計画を立てる。
2	学習問題に対する予想から、学習計画を立てる。
3	消防署の活動について知り、消防署見学で調べたいことをまとめる。
4・5	消防署を見学し、火災への備えや対応に着目して調べる。
6	消防署見学で調べたことをまとめる。
7	校内や地域における施設・設備について調べる。
8	関係機関や地域の人々の火災予防活動について調べる。
9	学習したことをもとに、火災予防について自分たちにもできることを考え、新聞にまとめる。

【単元構成】

4 研究の成果と今後の課題(○:成果、●:課題)

- ツールミンモデルを生かした思考ツールと表現ツールとしての機能をもつワークシートの活用によって自分の考えを表現することができる児童が増えた。
- ICTの活用によって、児童の視覚的な理解を促進するとともに、資料を活用しながら自分の考えを表現することに寄与していた。
- 見学を主軸におき、ゴールを見据えた単元構成によって、児童が問いや考えをもって主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現することができる児童が多く見られた。
- ツールミンモデルのワークシートは定着が必要であり、継続的な活用が望まれる。
- ICT機器を効果的に活用するためには、授業のどの場面で、どの程度使用するかについて目標と照らし合わせながら検討する必要がある。

主題

児童が自分の考えを表現できるようにするための手立てはどうあればよいか



東諸県郡小学校社会科部会

研究内容

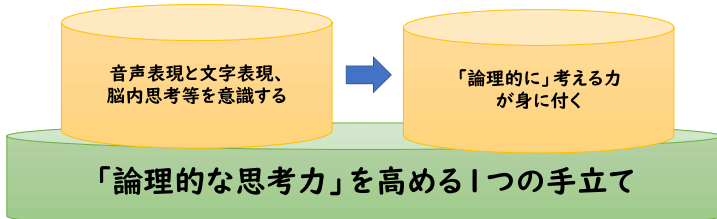
① ツールミンモデルの活用

② ICT機器の活用

③ 単元構成の工夫

① ツールミンモデルの活用

ツールミンモデルとは
イギリスの分析哲学者スティーブン・ツールミンが提唱した主張を図式化する「議論レイアウト」である。



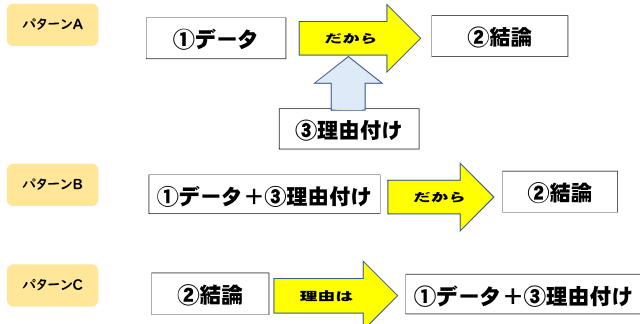
① ツールミンモデルの活用

ツールミンモデルでは、結論を支える根拠を「データ」と「理由付け」に分けて、①「データ」、②「結論」、③「理由付け」の3つを議論の基本要素として図式化する。

- ① **データ(証拠)**・・・結論を導くための証拠の部分。データに基づいた結論の補足。
～教科書や資料、実験結果等
- ② **結論(主張)**・・・データから導き出される結論
～問いに対する答え
- ③ **理由付け**・・・さらなる結論の補足。データから結論への結び付きの妥当性を表すもの。
～読者の解釈、重視する論点、原理や法則

① ツールミンモデルの活用

論理の展開には次の3パターンがある



① ツールミンモデルの活用

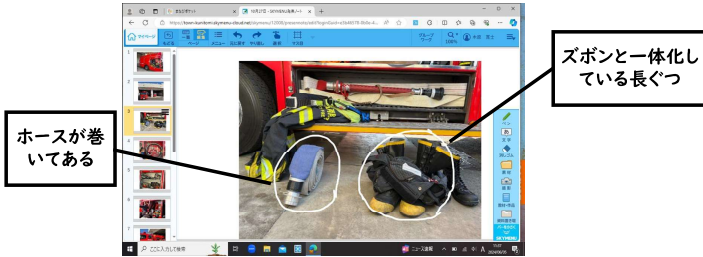
(例) 「宮崎市の〇〇通りは危険ですか?」という問いについて考える

- パターンA
-
- ① **データ(証拠)**
「宮崎市の〇〇通りは、5分間に50台の車が通ります。」
 - ② **結論(主張・答え)**
「だから、危険だと思います。」
 - ③ **理由付け**
「交通量が多いと事故が起こりやすいからです。」

① ツールミンモデルの活用

<早く出動する工夫～データ・事実～>

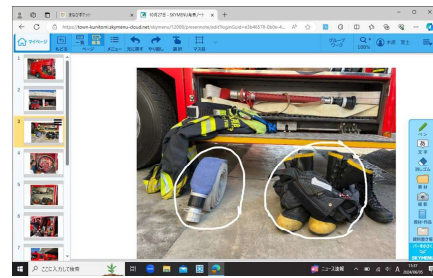
何枚かの写真の中から早く出動する工夫についての写真を探しその部分に丸をつける。



① ツールミンモデルの活用

<早く出動する工夫～理由～>

丸をつけたところの「早く火を消す工夫」の理由を考える。



【丸をつけた理由】

- 長ぐつ すぐに着替えて出られる
- ホース 転がしてすぐにのぼせる

① ツールミンモデルの活用

<早く出動する工夫～結論～>

事実と理由から結論としての「自分の考えや意見」をまとめる。

データ・事実 ズボンと一体化している長ぐつ	理由 すぐに着替えて出られる
---------------------------------	--------------------------



結論（自分の考えや意見）
1分以内に着がえるために、長ぐつとズボンがセットになっていた。おどろきました。

② ICT機器の活用

1. 「工夫見つけ」



・消防署見学時の写真から班で決めてた工夫が分かる所を探し、○をつける。【データ・事実】

※4つの工夫の中から班で1つ選んでいる。

- ① 消防車の種類の工夫
- ② 早く出動する工夫
- ③ 早く救助する工夫
- ④ 早く火を消す工夫

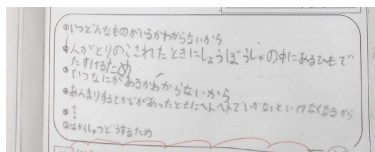
活動が簡単で分かりやすく、全部の班が取り組むことができた。

② ICT機器の活用

2. 「話し合い活動」



・どうしてその工夫がされているのかについて、班で話し合い理由を明らかにする。【理由】



写真があることで、社会科見学時のことを思い出しやすく、理由を考えやすい。

② ICT機器の活用

3. 「全体共有」



・工夫とその理由を班ごとに発表する。【共有】

他の班が発表する工夫についてわかる。

③ 単元構成の工夫

1. 「見学を主軸おいた児童が見通しをもって学習に取り組むための工夫」

時	本時の活動
1	火災から地域の安全を守る活動に関心をもち、学習計画を立てる。
2	学習問題に対する予想から、学習計画を立てる。
3	消防署の活動について知り、消防署見学で調べたいことをまとめる。
4・5	消防署を見学し、火災への備えや対応に着目して調べる。
6	消防署見学で調べたことをまとめる。
7	校内や地域における施設・設備について調べる。
8	関係機関や地域の人々の火災予防活動について調べる。
9	学習したことをもとに、火災予防について自分たちにもできることを考え、新聞にまとめる。

児童が見通しをもって学習に取り組むための単元導入

③ 単元構成の工夫

1. 「見学を主軸おいた児童が見通しをもって学習に取り組むための工夫」

1 雑誌書P10の「火事の様子」とP11の「火災直後の様子」を見て、だれがどんなことをしているか？

だれが → ？
 . → ？
 . → ？

だれが → ？
 . → ？
 . → ？

2 学校やいそいでおこなわれている、災害や交通にこまやかでかつどは、どんなものがあるだろうか？

学校では → ？
 . → ？
 . → ？

いそいで → ？
 . → ？
 . → ？

3 自分たちのまわりには、どのようなけんがあるのだろうか？

きけんな場所 → ？
 . → ？
 . → ？

きけんな行動 → ？
 . → ？
 . → ？

ちいさの安全を守ってくれる人たち……(ちいさの人) () ()

調べてみたいことを書こう

消防たい員 → ？
 . → ？
 . → ？

けいさつかん(おまわりさん) → ？
 . → ？
 . → ？

第1・2時で活用したワークシート

③ 単元構成の工夫

2. 「見学を主軸においた表現力を高める工夫」

時	本時の活動
1	火災から地域の安全を守る活動に関心をもち、学習計画を立てる。
2	学習問題に対する予想から、学習計画を立てる。
3	消防署の活動について知り、消防署見学で調べたいことをまとめる。
4・5	消防署を見学し、火災への備えや対応に着目して調べる。
6	消防署見学で調べたことをまとめる。
7	校内や地域における施設・設備について調べる。
8	関係機関や地域の人々の火災予防活動について調べる。
9	学習したことをもとに、火災予防について自分たちにもできることを考え、新聞にまとめる。

表現力を高めるための単元の終末

③ 単元構成の工夫

2. 「見学を主軸においた表現力を高める工夫」

新聞作り

自分にもできること

学習して分かったこと

まとめ

<成果>

- ツールミンモデルを生かした思考ツールと表現ツールとしての機能をもつワークシートの活用によって自分の考えを表現することができる児童が増えた。
- ICTの活用によって、児童の視覚的な理解を促進するとともに、資料を活用しながら自分の考えを表現することに寄与していた。
- 見学を主軸におき、ゴールを見据えた単元構成によって、児童が問いや考えをもって主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現することができる児童が多く見られた。

まとめ

<課題>

- ツールミンモデルのワークシートは定着が必要であり、継続的な活用が望まれる。
- ICT機器を効果的に活用するためには、授業のどの場面で、どの程度使用するかについて目標と照らし合わせながら検討する必要がある。

1 研究主題とのかかわり

(1) 児童の実態と課題

本学級の児童は、6学年を迎え初めて学ぶ歴史の学習について興味・関心が高く、前向きに取り組んでいる。しかし、その学習内容は初めて学ぶ喜びであり、学んだことを社会と自分とのつながりで考えたり、歴史的事象が今につながっていることを深く考えたりするまでには至っていない。また、資料の読み取りについても、社会的な見方・考え方である、空間や時間、歴史的な背景等についてまで考えている児童は少なく、社会的な事象を自分事としてとらえていないことも課題であった。

(2) 教師の課題

これまでの指導をふり返ると、教科書通りの流れで授業を行い、記述されていることを習得させることに重点を置いた指導であった。そのため、児童は真面目に取り組むことはできるが、既習事項を活用した技能を発揮して学習に取り組んだり、自ら問いを見つけ考えたりする姿は見られなかった。更に、上記に見られる児童の課題は、教師の指導の課題ととらえ、指導の改善及び工夫が必要であることも実感した。

上記の児童の実態と課題及び教師の課題をふまえ、宮崎県小社研の研究テーマである「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」の考え方を参考にしながら、以下の手立てを行うことで研究を進めることにした。

2 研究の手立て

(1) 児童の思考に沿った単元の工夫

児童が既習した学習内容を活用して課題を解決していくためには、児童の学習経験が大きく関係してくると考えた。そこで、児童が前単元で学習したことを次の単元でも活かせるように、次単元の流れも前単元と同じにすることで、前単元の学習を想起しながら考えたり調べたりすることができるように「児童の思考に沿った」単元の工夫を行った。

(2) 社会的な見方・考え方を働かせる「資料」の提示

1時間の学習における「調べる」活動では、児童は教科書を資料として調べることが多い。教科書を調べる時に課題となるのが、情報量が多過ぎる事や国語の読み取りと同じように、本文の読み取りに終わってしまい、社会的な見方・考え方を働かせて考え、調べ学習に取り組んでいる児童が少ないことであった。そこで、「教科書を開きなさい」という指示ではなく、教師が社会的な見方考え方を働かせて調べることのできる資料を精選し、精選した資料を児童に配付することにより、児童は「位置や空間的な広がり」や「事象や人々の相互関係」等の社会的な見方・考え方を働かせて、資料をもとに調べ学習を進めた。

(3) 社会的な見方・考え方を働かせるふりかえり

学習の終末において、分かったことをまとめることは、本時の学習内容を整理することができるだけでなく次時にも活用できるよさがある。しかし、「まとめだけで終わっている」「社会的な事象が自分事になっていない」という課題も明らかであった。そこで、分かったことだけでなく、分かった事実から自分はどのように考えるのかまでは記述させることが必要であると考えた。先行実践者の(宗實直樹氏)実践を参考にしながら、振り返りに書くべき内容の視点を明らかにし児童に書き方の例をもとに指導を行った。

4 具体的な実践

(1) 児童の思考に沿った単元の工夫

① 実践例(単元名)「天皇を中心とした政治」

教科書では、単元の1時間目は「法隆寺を建設したのはなぜか」について考え、調べる展開とな

っている。本実践では、前単元（「大昔のくらしとくにの統一」）で「くらし」という視点で学習がスタートしているため、次単元（「天皇を中心とした政治」）でも、「くらし」から第1時間目の学習をスタートできるように単元計画の入れ替えを行った。



<第1時間目と第8時間目を入れ替えた>

(2) 社会的な見方・考え方を働かせる「資料」の提示

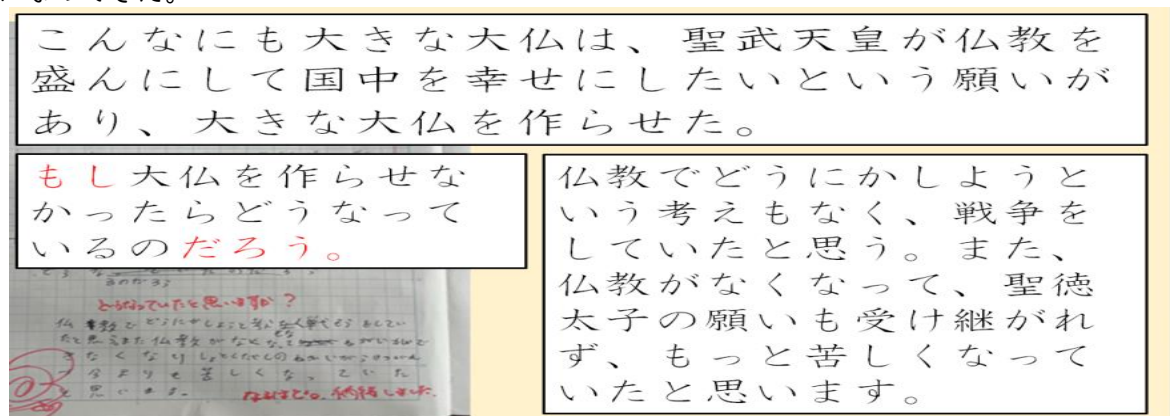
① 実践例（単元名）「天皇を中心とした政治」

本実践では、調べ活動の範囲そのままを提示せず、教師が、社会的な見方・考え方を働かせてねらいを達成できると考えた資料を精選し、調べる活動の際の資料として児童に配布した。

(3) 社会的な見方・考え方を働かせるふりかえり

① 実践例（単元名）「天皇を中心とした政治」

学習の終末において、「まとめ+自分の考え」という2つの内容で学習の振り返りを書かせるようにした。経験がないため、初めての時間は「振り返りの視点と書き方」を提示した。書き方の視点は、「価値判断」「仮定」等を与える事で、理解したことをもとに「最終的に自分はこう考える」という、社会的な見方や考え方を根拠とした自分の考えを記述し学習のふりかえりを行うようにした。学習を終えるごとに書く回数も増え、児童も書き方に習熟し、事象を自分事として捉えられるようになってきた。



5 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 手立て1については、児童の思考に沿った単元の工夫を行うことで、前単元で身につけた力を発揮しながら、児童の問いから生まれる学習問題作成へと高めることができた。
- 手立て2については、資料の精選や提示の工夫を行うことで文章の読み取りに終わるだけでなく、歴史的な背景、空間・位置などを考えながら、調べたり調べたことをまとめたりすることができる児童が増え、社会的な見方考え方を働かせながら考える力がついてきた。
- 手立て3については、社会的な見方・考え方を働かせて振り返りを書くことができるようになってきたが、児童の振り返りを授業の中に活かすまでに至っていないことが教師の課題として、今後改善が必要である。

宮崎県小社研 令和6年度研究主題

「自ら学び、考え、社会を拓こうとする
子どもを育てる社会科学習」

三股町立 三股西小学校
谷口 勇太

本学級の実態と課題

1 児童

- (1) 実態
・歴史学習に対して関心が高い
- (2) 課題
・歴史的事象を自分事として捉えるまでに至っていない
・社会的な見方・考え方を働かせることが、不十分である

2 教師

- (1) 課題
・教科書通りに指導をしており、児童が主体的に学ぶための指導の工夫が不足している。

研究の手立て

- 1 児童の思考に沿った単元の工夫
- 2 社会的な見方・考え方を働かせることのできる「資料」の提示
- 3 社会的な見方・考え方を働かせるふりかえり

手立て！「児童の思考に沿った単元の工夫」

1 児童の実態

- 前単元「大昔のくらしとくにの統一」
→「くらし」を視点に思考する力が身についた

2 教師の課題

- 次単元「天皇を中心とした政治」
→寺の建設と意味について考える学習スタート

「思考の流れが前単元と違う」

「習得した技能を活用できるような工夫」

手立て！「単元計画の工夫」



手立て1 「児童の思考に沿った単元の工夫」

家の大きさが大きい(広い)

貴族と農民の食事がぜんぜんちがう

**昔は米で争いをしていたのに、なぜ
市中で、米を売っているのか**

**生活の違いは政治かな。
どんな政治をしていたのだろう**

手立て1 「児童の思考に沿った単元の工夫」

<児童の思考の流れ>
これまでのくらしとの違い(気づき)

↓

くらしの違いは、政治の違いではないか。(問い)

↓

(単元を貫く学習問題<問いの整理>)
「この時代では、どんな政治をしていたのか」。

手立て2 「社会的な見方・考え方を働かせることのできる「資料」提示」

情報が多すぎる!

手立て2 「社会的な見方・考え方を働かせることのできる「資料」提示」

1 児童の実態

- 情報量の多さから、必要な情報を取り出せない
- 本文からの情報の読み取りに終始しがち

2 教師の課題

- 「教科書を開いて、調べましょう」(適切な指示への改善)

↓

- 書いてあることを調べ、整理させている

↓

社会的な見方・考え方を働かせるための資料の提示

1 資料の精選

2 社会的な見方・考え方の視点を指導

「位置や空間的な広がり」

「事象や人々の相互関係」

「時期や時間の経過」

児童に配布し、書き込ませたノート

近畿地方に集まっている。近畿が首都だったのでは？(位置)

聖武天皇が仏教の力によって国を治めるためにたてさせた。(事象の意味)

いっぱい都が変わっていることから…(歴史的背景)

社会的な見方・考え方を働かせながら、
本時の目標につながる調べ学習となった



手立て3 社会的な見方・考え方を働かせるふりかえり

1 児童の実態

- 分かったことだけをまとめている
- 歴史と自分とのつながり等を考えていない

2 教師の課題

- 学習内容のまとめの指導で終わっていた

↓

- 社会的な事象を自分事としてとらえられる指導が必要

↓

「まとめ+自分の考え」を組み合わせた振り返り

社会的な見方・考え方を働かせるふりかえり

振り返りに書くべき内容の視点

- ① 価値判断 「～したらいいと思う」「一番大切なのは～だ」
- ② 意志決定 「～だからこれから～したい」
- ③ 一番の学び 「今日の一番の学びは～だった。理由は～」
- ④ 感動 「～に感動した。その理由は～」
- ⑤ 仮定 「もし～なら～だろう」……………等

出典：宗賢直樹の社会科授業デザインより作成

こんなにも大きな大仏は、聖武天皇が仏教を盛んにして国中を幸せにしたいという願いがあり、大きな大仏を作らせた。(まとめ)

もし大仏を作らせなかったらどうなっているのだろう。(自分の考え)

仏教でどうにかしようという考えもなく、戦争をしていたと思う。また、仏教がなくなって、聖徳太子の願いも受け継がれず、もっと苦しくなっていたと思います。(更に深まった自分の考え)

なぜこんなに大きい大仏をつくったのかは、大仏が大きいほど力がつよいとおもわれ、人々のわがいのしあわせにくらいしたいなどのことからたくさんの人數でつくっていた。(まとめ)

私も昔の人だったら同じで、わがいをかなえるために、大きな大仏をつくっていた。

自分事としてとらえられるようになった

成果

- 児童の思考に沿った単元の工夫を行うことで、前単元での学習で身につけた力を発揮しながら、学習問題作成へとつなげることができた。
- 社会的な見方・考え方を働かせる「資料」の提示においては、文章の読み取りではなく、歴史的な背景、空間・位置などを考えることができるようになってきた。

課題

- 社会的な見方・考え方を働かせるふりかえりを書くことができるようになった。しかし、教師が児童の振り返りを授業の中に活かすまでに至っていない。

～ご清聴ありがとうございました～

【学年部別授業づくり研修資料】

学年部別授業づくり研修（11:30～12:30）

部会	授業提案者	司会者	会場	
中学年	延岡市立東小学校 指導教諭 東坂 将秀	宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 神田 佳奈	101 研修室	ブレイク アウト ルーム①
高学年	都城市立高城小学校 教諭 平野 雄大	宮崎市立木花小学校 指導教諭 三角 友香	102 研修室	ブレイク アウト ルーム②

1 単元名 火事から人びとを守る

2 単元の目標

知識及び技能	消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、見学・調査したことをもとに、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解することができる。
思考力・判断力 表現力等	施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえ、関係機関の相互の関連や従事する人々の働きを考え、図表等にまとめて表現したりすることができる。
学びに向かう力 人間性等	主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分にできることを考えようとする態度を養う。

3 指導計画(全9時間)

主な学習内容及び学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ 延岡市で起きている火事の件数や原因の移り変わりについて話し、調べてみたいことをまとめて学習問題を作る。(1時間) ○ 消防署ではたらく人々は、どのような仕事をしているのか調べる。(2時間) ○ 火事が起きた時、消防署ではどのような活動が行われているか調べる。(1時間) ○ 消防隊員の仕事について調べる。(1時間) ○ 火事以外の災害が起きた時の消防署の人々の仕事について調べる。(1時間) ○ 学校や地域に設置してある火災予防のための施設について見学したり、地図を使って調べたりする。(1時間) ○ 地域の消防団活動について調べる。(1時間)【本時】 ○ 火事から安全なくらしを守るため自分たちができることを考える。(1時間)

4 本時の目標(8/9時間)

地域の消防団の活動について調べ、地域の安全を守る働きについて理解することができる。(知識及び技能)

5 学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容(予想される児童の反応●)	指導上の留意点(○)・主な発問(☆)	準備物
導入 8分	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消防指令室に連絡が入る。 ○ 消防指令室から出動命令を出す。 ○ 警察署や病院などの関係機関に連絡を入れる。 <p>2 消防団の詰所の写真を提示し、本時の学習問題の設定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シャッターが閉まっているけれど、何かしているのかな？ ● 誰もいないようだけど、どんな人が消防団になっているのかな？ ● 火事が起きた時に、集まるのかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 消防団は、どのような活動をしているのだろう。 </div>	<p>☆ 「火事が起こった時、消防署ではどんな活動していたのかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もいない詰め所の写真を提示することで消防団への興味や疑問がもてるようにする。 ○ 消防団員が集合している詰め所の写真も提示し、新たな問いが生まれるようにする。 ○ 119番通報の仕組みを表した図や消防団の詰所の写真から気付いたことや疑問に思ったことをもとに、本時の学習問題の設定につなげる。 <p>☆ 「消防団の写真を見て気づいたことや思ったことはないかな？」</p> <p>☆ 「シャッターが閉まっているけれど活動しているのかな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真 ○ パソコン ○ 119番通報の仕組みを表した図 ○ 詰所の写真
展開 30分	<p>3 めあてに対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消火活動のお手伝いをしているかな。 ● どこから来た人なのかな。 ● 今出動しているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの生活経験などを活かし、予想を立てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インタビュー資料
	<p>4 消防団の活動を調べ、そこに携わる人々の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の安全を守りたい。 ● みんなで安心して暮らせる街を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消防団活動に取り組んでいる方のインタビュー資料を基に、活動について調べ、消防団に所属している人々の思いについて考えることができるようにする。 ☆ 「どのような思いで活動しているのかな？」 	
まとめ 7分	<p>5 調べたことをもとに、めあてに対するまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 消防団は、消火活動の手伝いをしたり、火災予防のよびかけを行ったりしている。 </div>		

令和6年8月8日(木)

都城市立高城小学校

指導者 平野雄大

1 単元名 武士による政治のはじまり

2 単元の目標

知識及び技能	遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集めたり読み取ったりして、鎌倉に幕府が置かれたところに武士による政治がはじまったことを理解することができる。
思考力・判断力・表現力等	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して問題を見出し、貴族のくらしや現代のくらしと比較したり、鎌倉幕府の政治の仕組みや元との戦いなどについて考えたりして適切に表現できる。
学びに向かう力 人間性等	武士が台頭してきたことや源平の戦いの様子、鎌倉幕府の政治の仕組み、元との戦いなどについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。

3 指導計画

主な学習内容及び学習活動(6時間)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 武士と貴族の暮らしの比較を通して、武士に興味をもつ。(1時間) ○ 武士がどのように力をつけていったかを調べる。(1時間) ○ 鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる。(1時間) ○ 元との戦いをもとに、幕府と御家人の結びつきについて調べる。(1時間) ○ 元との戦いのあと、御恩と奉公の関係が崩れたことを理解する。(1時間) ○ 学習してきたことをもとに、鎌倉幕府の政治の仕組みの是非について考える。(1時間)【本時】 	

4 本時の目標(6/6時間)

鎌倉幕府の政治の仕組みの是非について、これまで学習してきたことや現在の政治の仕組み等と比較しながら判断し、自分なりの考えをまとめることができる。(思考力・判断力・表現力等)

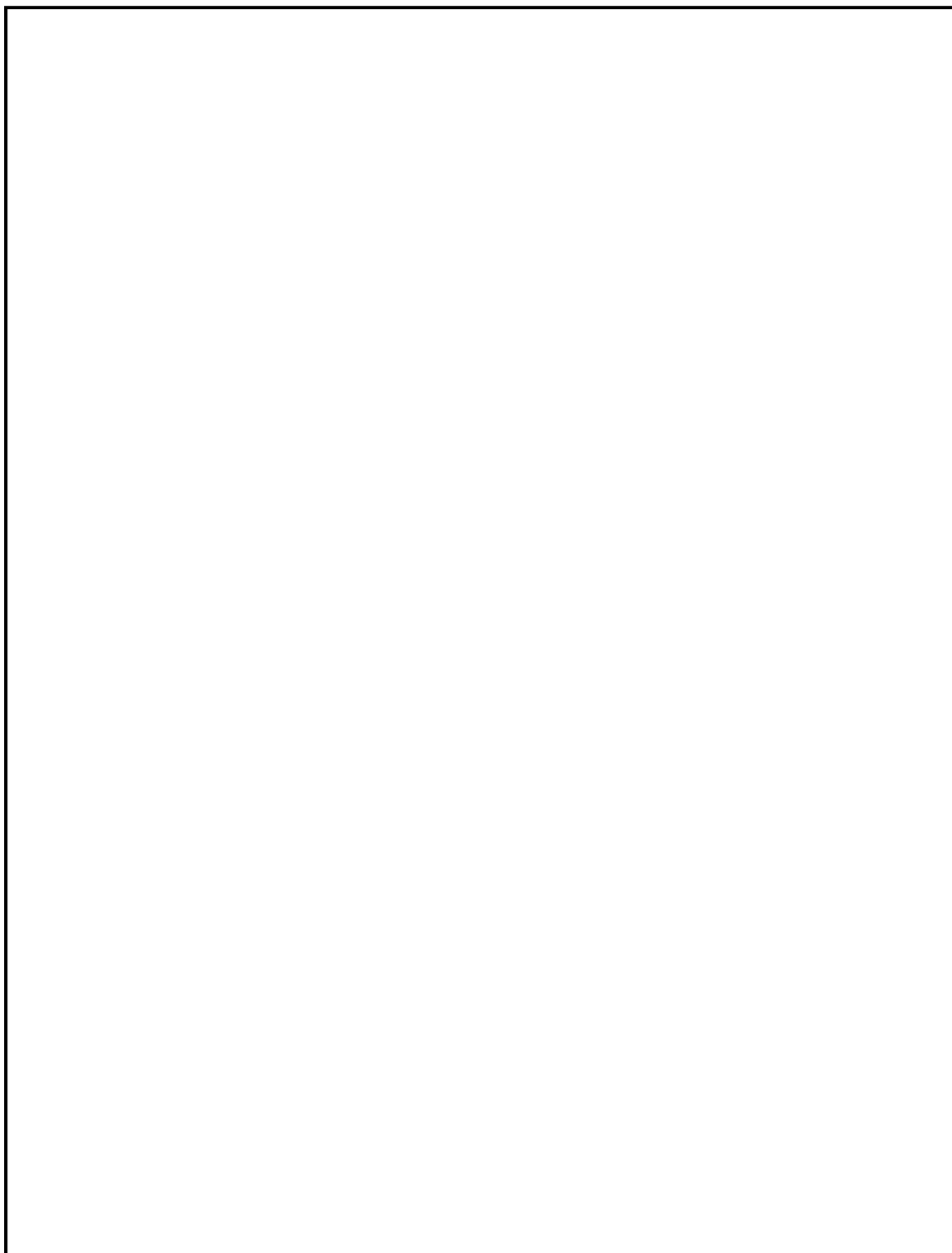
5 指導過程

段階	学習活動及び学習内容(予想される児童の反応●)	指導上の留意点(○) 主な発問(☆)	準備物
導入 10分	1 これまでの学習を振り返る。 ○ 貴族にかわる武士による政治 ○ 守護や地頭、御恩と奉公という政治の仕組み ○ 承久の乱 ○ 元軍との戦い後の御家人の不満の高まり ○ 幕府の衰退	○ これまでの授業で使用してきた資料を提示することで、鎌倉幕府の政治の仕組みについて振り返ることができるようにする。	○ これまでの学習内容の掲示物 ○ 封建制度が江戸時代まで続いたことが分かる資料
	2 本時の学習問題を確認する。 世の中の安定のために、鎌倉幕府の政治の仕組みはよいものだったのだろうか。		
展開 30分	3 鎌倉幕府の政治の仕組みに対して、自分なりに点数をつけ、その理由をまとめる。 ● 90点かな。守護と地頭を置くことで、地方までしっかり支配できている。御家人との関係づくりも御恩と奉公でしっかりできている。 ● 80点かな。御恩の効果で、承久の乱のときも、御家人たちは朝廷と戦う気持ちが高まった。みんなをやる気にさせる仕組みはよかったと思う。 ● 50点かな。御恩と奉公の関係で御家人との結びつきは強かったけれど、最後は十分な御恩をあげられなかった。今なら給料をあげないようなもの。御恩は土地以外のものでもよかったかも。決めた約束は守らないといけない。 ● 30点かな。朝廷とももう少し話し合って、仲良くして、協力していればもっといい社会が作れていたかもしれない。戦い(承久の乱のこと)じゃなく、現代のように話し合いが必要だった。平清盛のように朝廷とうまく手を組むべきだった。 4 グループで自分の意見を伝え合う。	☆ 「鎌倉幕府の政治の仕組みに点数をつけるとしたら、何点をつけますか?その理由も書きましょう。」と投げかけ、児童に考えさせる。 ☆ 自分の考えを形成するのが難しい児童には、「御恩と奉公の仕組みを御家人たちはどう思ったかな?」「守護と地頭を置いたことで、地方の人々はどう思ったかな?」などと具体的な政策や立場を考えさせ、判断材料にさせる。 ○ 学習したことや現代との比較、資料など客観的事実をもとに考えさせる。 ○ 御成敗式目を示すことで、児童の価値観を揺さぶり新たな問いが生まれるようにする。	○ ワークシート
	5 全体で意見を交流する。		○ 御成敗式目の資料
まとめ 5分	6 様々な児童の意見をもとに、鎌倉幕府の政治の仕組みのよかった点や悪かった点について振り返る。		

講演 (13:30~15:00)

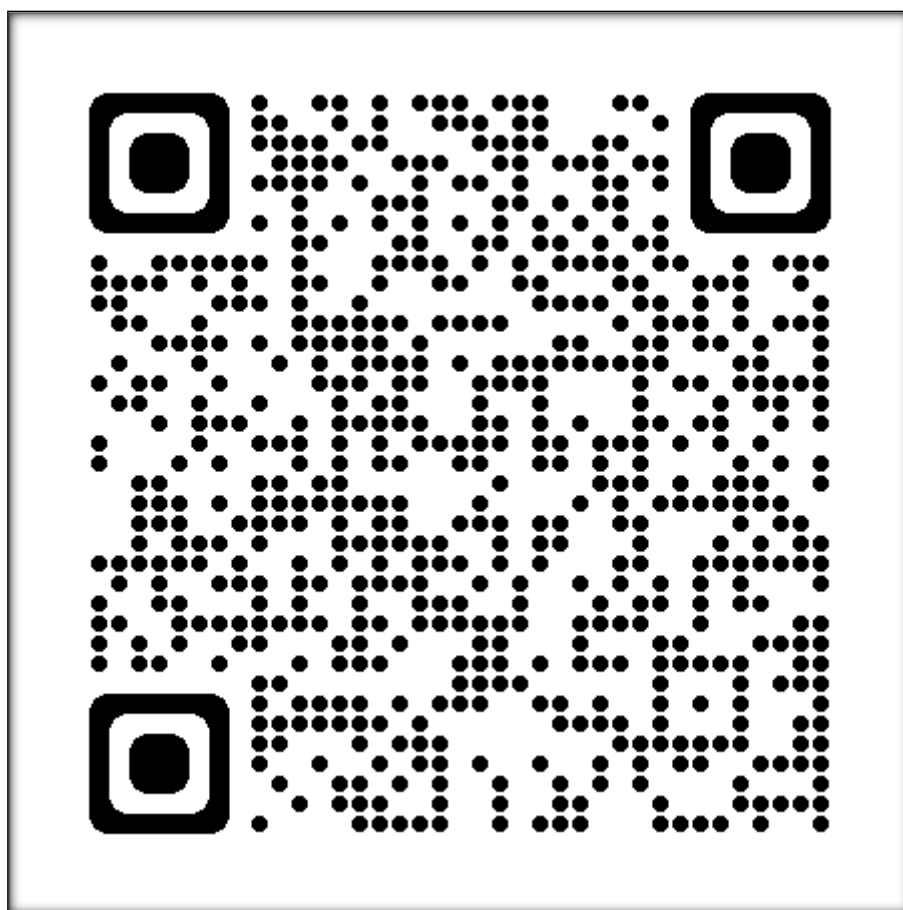
【演題】社会科学習指導の充実に向けて

【講師】 国立教育政策研究所 教育課程調査官 小倉 勝登 氏



令和6年度 夏季特別研修会 事後アンケートにご協力ください

本日は、お忙しい中、令和6年度夏季特別研修会にご参会くださり、ありがとうございました。宮崎県小学校社会科研究会では、先生方のご意見をもとに、よりよい研修会の実施に努めていきたいと考えております。つきましては、お帰りの前にアンケートへのご協力をお願いします。ご理解の上、ご協力をよろしく申し上げます。



<https://docs.google.com/forms/d/1cncK-EAveD4I-GUiQxFmLIkqoOCU4qXEFMgHfJlksoE/edit>